

地域子ども達に高齢者施設の存在を知ってもらい、介護の仕事についての理解を深める

☞ 取り組み内容のポイント ☞ 児童の施設見学、施設職員の学校訪問を通じて、地域の中における老人介護施設の存在、役割を知ってもらい、子ども達の福祉の仕事に対する理解を深める。また、子ども達が気軽に施設に遊びに来られる関係作りをする。

神奈川県

社会福祉法人

中心会

〒243-0431 神奈川県海老名市上今泉4-8-28

TEL: 046-231-5888 FAX: 046-231-6396

●法人創設年

昭和 28 (1953) 年

●法人実施事業

① 経営施設数合計: 5 施設

② 経営施設・事業【種別毎の数】:

養護老人ホーム… 1、特別養護老人ホーム… 4、訪問介護… 1、
訪問入浴介護… 1、通所介護… 2、短期入所生活介護… 3、
居宅介護支援… 2、地域包括支援センター… 2、
児童養護施設… 1

●法人の理念・経営方針

私たちは、私たちが活動する地域社会において、自分や自分の大切な人が抱える心身の障害や生活環境上の問題によって、様々な『不自由』『生きにくさ』を現に経験し、または経験するだろうリスクを有する人々に対して、適切な専門性の担保された養護、介護、及びこれに関連する諸サービスを提供することを通じて、誰もが自分の存在に誇りを持ち、生きる喜びを享受するとともに、自分の家族や隣人の存在を素直に喜びことができる社会づくりに貢献します。

●取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ① 定款への記載: 記載していない
- ② 事業報告・計画への記載: 記載している

●取り組みを実施している施設の概要

【施設名】:

えびな北高齢者施設

【施設種別及び利用定員】: 介護老人福祉施設 定員 50 名
短期入所生活介護 定員 30 名、通所介護 定員 40 名

●活動内容

- ◇ 活動開始年: 平成 23 (2011) 年 4 月
- ◇ 活動の対象者: 近隣小学校
- ◇ 活動の頻度・時間
 - ・ 学校訪問 年 1 回
 - ・ 施設訪問 年 1 回
 - ・ 児童の施設来訪 不定期

●活動実施の背景、実施にいたった理由

中学生が介護という職業を正しく理解していないという状況があった。毎年近隣の中学校の生徒が職場体験にやって来るが、前年度は希望する中学校が 1 校だけであった。学校の担当の先生からは「今の子ども達は大変な仕事を選ばないので参加者が少なかった。希望者がいなかった」といった説明があった。また、施設職員の子どもが学校の授業で「デイサービスは家族が介護をしなくて良いように、家族が楽になるための場所である」と先生から教えられていた事があった。

今の子ども達はお年寄りと同居している子は少なく、高齢者に対する理解はあまりないのではないかと考えた。介護の仕事に対して興味を持ってもらうためには、介護を正しく学ぶ場所が必要であり、施設の存在意義を子どもたちに伝えていく機会を作ることが大事であると考えた。

●実施内容

近隣小学校へ子ども達に介護を学ぶ機会を作ってもらえるか打診をし、小学校の総合学習の時間で、施設の見学、施設職員が学校を訪問する機会を作ってもらった。また、子ども達に「夏」をテーマにした絵を描いてもらい、施設の夏祭りの際にエントランスホールに展示をして子ども達やご家族に遊びにきていただいた。

施設の見学では、子ども達に利用者の居室、リビング等生活スペース、入浴設備、デイサービスフロア、医務室、調理場等を見学してもらい、高齢者施設で暮らしているお年寄りがどんな暮らしをしているのかを見てもらった。施設で提供しているサービスについて、小学生でもわかるように簡単に説明した資料を作成し、その資料にそって説明をした。

学校訪問では、以下の事を小学校の体育館で 3 つのブースに子ども達を分けて授業をした。

- ・施設で働く専門職についてパワーポイントで資料を作成し、プレゼンテーション
- ・移乗介助の方法について、スライディングボード、スライディングシートを使用して説明
- ・施設で調理した食事を2品持参し、児童に試食してもらい、高齢者の食事について説明

◎活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

生徒達には、施設見学、職員の学校訪問といずれも興味を持って見てもらう、体験してもらうことができた。施設見学時の質疑応答の時間では、子ども達からたくさんの質問があり、介護施設に興味を持っている様子が覗えた。

職員の学校訪問では、スライディングボード等の道具を使った移乗介助の方法に興味を持ってもらえたようで、楽しんでいた。

施設見学、学校訪問の後は、夏祭りで児童の絵を展示していたこともあり、施設の夏祭りに遊びに来てくれる子どもがいた。

また、子ども達から機械浴の入浴体験をしたいとの希望があり、保護者付き添いで来訪し、機械浴槽の入浴体験を子ども達にしてもらった。



移乗体験

◎今後の展開

施設見学や学校訪問時は興味を持ってもらえており、子ども達の反応は良かったが、その後実際に施設に遊びに来てもらったのは数名だけであった。継続してもっと多くの方に「本当に行っているんだ」「行ってみたい」と感じてもらえるようなアプローチが必要であると考えます。

施設の中に日常的に地域の子供達が入り出し、利用者と知り合いになってもらえるような関係作りができれば良いと考えます。

現在、以上のような交流をしているのは近隣の小学校1校だけであるが、交流を持てる学校を少しずつでも増やしていければ良い。

◎主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数〔5〕名

（職種等：管理職、生活相談員）

※法人全体の事業規模（同上）〔2,041,885〕千円



子ども達の絵の展示



職種紹介